

あいちの三英傑、実は四英傑では?

1年7組 坂部孝樹

①調べようと思ったわけ

僕の家に愛知県が作成した「あいち武将観光ガイドブック」という冊子がありました。その中には西三河の観光地が18カ所と多くありましたので、実際にこれららの観光地を訪れ、観光地としての魅力がある場所か、また、これらの観光地同士が歴史上どの様な関係にあるのか調べ、愛知県から出た「三英傑」は本当に3人だけなのか調べようと思ったから。



②調べ方(調査の仕方)

あいち武将ガイドブックに載っていた観光地は60カ所と多くあったので、西三河の徳川家康の観光地を中心に調べる。まず、徳川家の発祥の地について調べ、松平の山間部から岡崎平野へ進出した時の岡崎市内の観光地を調べる。



次に、調べていく途中、源頼朝が西三河地域と大きく関係していることを知り、源頼朝とその先祖についても調べることにした。



③現地調査をした場所

現地調査をした場所は、以下の8カ所である。

①高月院(徳川家発祥の地)

松平家の菩提寺。徳川家康の祖先、松平氏初代と二代の墓がある。家康をはじめ歴代將軍の手厚い保護を受けた。山門や本堂は三代將軍家光によって建立された。

◀調査結果▶

豊田市の東部、東海環状道路松平インターから車で10分である。山門は、駐車場から50mの所でそこの後、石の階段が続き本堂横の受付で案内をいたたく。鐘は自由に撞いて良いなど説明がある。訪問者はいなく、静かなどみ物は事前に用意しておく必要がある。



② 松平東照宮

かつて松平郷に松平氏の館跡の地、幡社と東照権現を合祀し創建。この跡は、松平家男子誕生の際に使われ、家康誕生時も岡崎城まで早馬で運んだといわれる。四季の草花を描いた本堂の天井画も必見。



松平東照宮の天井画

松平東照宮本殿正面

調査結果

高月院の手前100mの所にあり、入口には掘があり、錦鲤が多く飼育されていた。天井画は風通しの良い本堂にあった。保存状態はよい。近くに休憩所があり、徳川家の系図などが展示場に示されている。訪問者はいなく静かな山村部落の中にあった。駐車場は自動販売機が、設置されており、豊田市の観光案内板も整備されていた。

③ 滝山寺・東照宮

三代将軍徳川家光により岡崎城の鬼門を守護する滝山寺の境内に内殿が建設された。日本三大東照宮のひとつ。本殿のほか、拝殿、幣殿、滝山寺など国の重要文化財に指定されている。社殿内部も拝観可能。滝山寺は、運慶、湛慶作の「聖觀音・梵天・帝釈天三尊像」を寺宝とする古刹。



滝山寺 本堂



滝山東照宮

調査結果

滝山寺は鬼祭り(火祭り)で有名であるが、宝物殿で有り住職の話では源頼朝の従兄弟(名前は寛伝:かんでん)が滝山寺の住職をしていていた。①住職は、頼朝の死後、鎌倉歯と現従へ行き頼朝の体の一部である頭ひげを作成し、それをいただいた。②これを運慶らが作成した寺の仏像の胎内へ納めた。③仏像は現在、在、国の重要文化財となっている。兄弟は熱田神宮の神官(宮司)が祖父である。などと説明があり、源頼朝は愛知県出身の武士であることが分かった。しかし、この寺への訪問者は少ない状況であった。

④ 野間大坊

鎌倉幕府を開いた源頼朝の父義朝が眠る寺。義朝の墓や頼朝寄進の大門をはじめ、狩野探幽の手による「義朝最期図」を拝観できる客殿は伏見城の遺構を移築したものと伝わる。また豊臣秀吉との戦いに敗れた信長三男織田信孝の墓もある。

調査結果

野間大坊は住職を始め関係者が不在であり、静



源頼朝と源氏の兄弟は従兄弟であった。

(7)(4)



仏像のレシケン写真

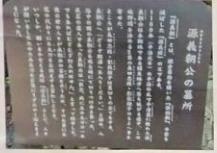
(口に輪郭線で囲んである)

現の仕事



野間大坊(大御堂)おおみごうじ

かな寺院であつた。頼朝が建立した火災塔も、太火の衰えた後は再建されず、頼朝の墓があるだけであつた。鎌倉幕府の五父も、なまく木府に訪問した者たちに慕われた。鎌倉幕府の五父も、なまく木府に訪問した者たちに慕われた。



源義朝公の墓

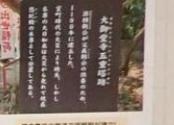


源頼朝の父・義朝(よしとも)公の墓



野間大辻の無人販売所で買った絵馬

左に義朝、右に義朝の子孫の五父



鎌倉幕府の五父の墓地には、源義朝の墓碑が置かれていた。

退とともに、あれれな交通えず、一いといと思われた。とは浜インターの知多中央道美浜インターチェンジより15分ほどの距離であつた。

5 大樹寺

徳川將軍家・松平家の菩提寺。桶狭間の戦いに敗れ岡崎に逃げ帰ったが提寺。桶狭間の戦いに敗れ岡崎に逃げ帰ったが、この代将軍家康から「歟離穢土欣求淨土」と教え論され思ひとどまつた。家康をはじめ歴代の家康が、家康の位牌が安置されている他、家康祖父が建立した多宝塔、岡崎城天守を望める伽藍配置など見どころも多い。



大樹寺正門(徳川家光創立)



大樹寺本堂正面

大樹寺は岡崎市の北部市街地にあり、徳川家の菩提寺である。歴代の順路を示す案内板も矢印(→)で書かれており、受付係の人にも親切に説明していただいた。訪問者も多く、駐車場では自動販売機、休憩所なども整っており、本堂では大樹寺ゆかりのグッズも多く販売されていた。

6 伊賀八幡宮

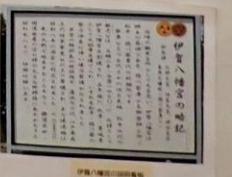
安城松平家の氏神。徳川家康は、大きな合戦の時には必ず参詣したといわれ、徳川家の武運長久・子孫繁栄の守護神とされた。家康が造営した本殿を三代将軍家光が増改築し、東照大権現を祀る。本殿、拝殿、随神門は国の重要文化財に指定されている。

調査結果

本殿などは徳川家の保護を得て、綺麗な色彩で覆われていた。本殿の中には入れず、冊子を手にとっていろいろな説明をしていただいた。岡崎の中心部に位置するためか、訪問者は比較的多く、地元の人たちも戦勝の祈願をしたなど、あり、中には家康は必ず戦勝の祈願をしたなど、あり、なかな説明をしていただいた。休憩所があり、中には地域の観光案内パンフレットが置かれていた。



伊賀八幡宮の本殿と拜殿



伊賀八幡宮の案内看板

⑦三河武士のやかた家康館（岡崎城）

2023年1月から翌年1月末までは大河ドラマ館として運営。

階、地階のスペースに出演者の衣装や撮影小道具の展示の他、映像コーナーが設けられ、大河ドラマ「どうする家康」の世界に彩られていた。隣接する岡崎城天守や市内の家康ゆかりの史跡めぐりの出発点である。

◀調査結果▶

資料館には、開館30周年記念の冊子が置かれていた。観光には力を入れており、50人ほどの入館者がいた。受付には3名ほどの車門の職員がいて親切に説明をしていた。展示物も豊富で、関ヶ原合戦の様子をジオラマで説明していた。また、実際の重さを再現した槍刀、乗馬など、子供が喜ぶ仕掛けもあった。



30周年記念冊子
岡崎城とその歴史

⑧六所神社

もともとは松平家の氏神として松平郷に創建。徳川家康の誕生時には産土神とされた。江戸時代、三代将軍家光が社殿を再建。本殿、幣殿、拝殿、桟門、神供所は国の重要文化財に指定されている。手相までわかる家康の手形は必見である。



六所神社山門(石碑が立っていた)



奉納された額面(額面が国指定文化財であった)

六所神社は岡崎城に最も近く、徳川家が常に参拝をしていたところであると説明があった。名鉄東岡崎駅にも近く、こんな都市部に静かな場所（六所神社）があるとは不思議であった。受付には神官が2名いて、親切に説明をしていただき、「暑いからエアコンのある休憩所で休んでください。」と親切な言葉もいただいた。

④結果

調査した結果は以下のようにまとめることができた。

- ①調査した神社や寺では訪問者が見学しやすい工夫が多くあった。
- ②徳川幕府は西三河の神社や寺を手厚く支援していた。
- ③特に三代将軍徳川家光は西三河の神社や寺の改修、創建に力を入れていた。
- ④鎌倉幕府を開いた源頼朝が熱田神宮と滝山寺に大きな関係があり、滝山寺の住職と従兄弟の関係であった。
- ⑤頼朝の死後、住職は鎌倉まで行き、頼朝本人の顎ひげと歯をいただき、滝山寺の本尊の胎内に納めた。
- ⑥この仏像は運慶、湛慶作であり、顎ひげと歯がレントゲン写真に写った結果、この仏像は国の重要文化財となっていた。
- ⑦頼朝の父（義朝）は知多半島の美浜町にある野間大坊に墓があり、

源頼朝はその野間大坊に五重塔を建立したが、焼失後再建されなかつた。

⑧徳川家康は源頼朝を大変尊敬していたと現在の滝山寺住職から説明を聞いた。

⑤考察

①歴史は、教科書に載っている部分だけではなく、現地を訪れるにより、更に様々な歴史と歴史との関係が理解できると思つた。

②西三河地域は、徳川だけでなく、他の武将や神社・寺も大きく関係しているので、徳川のことだけ調べるのは十分な研究とは言えないと思つた。

③特に、神社や寺院を訪ねると、神官や住職の人々から詳しく、興味のある話を聞くことができる所以、今後歴史を学ぶには、神社・寺院の調査は欠かせないと思つた。

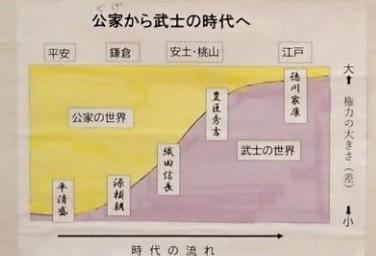
④源頼朝の時代は武士の力がまだ弱く、公家（朝廷）からの力もあり、さらには元寇などの事件もあり、寺院などの再建に力を注ぐ余裕がなかつたので、野間大坊の五重塔の再建を始め多くの仕事が出来なかつたように思われた。

⑤しかし、武士の力が強くなつた徳川時代になると、幕府の財力が大きくなり、大きく開花したので、徳川幕府にできたりと、文文化など関係する神社・寺院へ手厚い保護が思われる。

⑥三英傑（信長、秀吉、家康）が愛知県と大さく信長と関係したり、生誕地、家系図、調査するところを考えると、源頼朝を加えて日本全体に影響を及ぼした人物などを考えると、源頼朝を加えて『あいちの四英傑』といふことも言えると思つた。

⑥結論（僕の考え方）

あいちの三英傑と言われて、源頼朝も加えて、『あいちの四英傑』と言つた方が良いと考える。



あいちの武将 四英傑				
氏名	源 頼朝	織田 信長	豊臣 秀吉	徳川 家康
生誕地	駿頃今 (熱田神宮隣接地)	勝幡城 (現在城跡のみ)	中村郷中村 (豊國神社あたり)	岡崎城
住所	名古屋市熱田区	緑崎市平和町	名古屋市中村区	岡崎市康生町
活躍の場所	鎌倉・関東一円	岐阜・京都など	京都・大阪など	東京・静岡など
死亡年齢	51才	47才	61才	73才
墓の場所	鎌倉市	高野山	京都市	静岡市・日光市